

令和 5 年度第 1 回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議
(生活支援コーディネーター提供資料)

(地域の居場所の現状について)

1. 認知症カフェ
2. サロン・まごころ
3. 地域住民が集える開放的な居場所「よりどころ」
4. 各種団体（地区社協・地域力等）が実施する居場所・サロン

49 ヶ所

(地域の居場所の役割・必要性)

いつまでも元気でいられるために大切なこと

- 友人とお茶のみ
- 外食
- 旅行
- ボランティア活動
- カラオケ
- グランドゴルフ
- 趣味の活動
- 皆と一緒に体操・散歩
- 支えあい活動



「社会性」を
維持することで、
筋肉量の維持。
健康の維持。

東京大学高齢社会総合研究機構：飯島勝矢氏 資料参照



(居場所運営者の想い・キッカケ)

- ・認知症当事者と介護している友人と一緒に気楽に出かけられる居場所として
- ・地元の地域で何かできないかと 5 年前に「お茶会しませんか？」と回覧で呼び掛けたところ 2 人から協力者としての賛同が得られ開催
- ・名古屋でケアマネをしており、地域の居場所の必要性を感じた。どなたでも参加できる居場所を作りたい。
- ・家にいるばかりでなく外出するための機会としたいとの想いで開催。
- ・瀬戸市に引っ越してきて 10 年、地域とのつながりが以前いた場所と比べると薄いと感じていた。そのため、自宅を使って地域の集まりを始めた。
- ・2011 年の東日本大震災以降、助け合う気持ちの大切さを感じ、当時町内会の中心となっていたメンバー数人と 2013 年に会を結成した。
- ・地域の方が気軽に話しできたり、健康面などの困りごとを気軽に相談できる場を作りたいとのことからはじめた
- ・笑いながら話せる場所が欲しい
- ・昔からの知り合いが多い土地柄であるが、最近は、顔を合わせることも話をすることもほとんどない状況であったため、皆で集まる場所の必要性を感じた。
- ・近隣の友達の輪を広げたいと思い、小物作りやおしゃべりをしながら楽しいひと時を過ごす仲間を回覧で募集した。初めは 4、5 人程度から始まり口コミで広がり現在は 20 名程ほどの集まりになっている。
- ・地域との交流を目的として、代表者が、地域住民に声かけをして自宅の駐車場をかりるようになったのがキッカケ

(地域の居場所の支援のためのメニュー)

・「よりどころ」への支援内容

- (1) 「よりどころ」看板及び認定証を交付すること。
- (2) 「よりどころ」の広報宣伝に関すること。
- (3) 「よりどころ」の設置・運営に要する経費の一部を助成すること。ただし、主催するものが企業などであるときを除く。
- (4) 「よりどころ」の実施・運営に必要な情報の提供に関すること。
- (5) 「よりどころ」の実施・運営に伴う困りごと等の相談支援に関すること。
- (6) その他会長が必要と認める支援

・運営にあたっての補助金

基本助成

「よりどころ」年10回以上の実施 12,000円

人数加算

平均10人以上20人未満 3,000円

平均20人以上 5,000円

・開催当日のメニューとして

・在宅医療介護 出前講座

瀬戸旭医師会に相談し、依頼する

・地域サロン等応援事業

瀬戸市役所高齢者福祉課に相談し、依頼する。

・地域福祉パートナーシップ事業者認定事業者の講座

瀬戸市社会福祉協議会に相談し、依頼する。

・社会福祉協議会ボランティアセンター登録団体の活用

瀬戸市社会福祉協議会ボランティアセンターに相談し、ボランティアを依頼する。

※ボランティア名簿参照

・社協ふくし出前講座

瀬戸市社会福祉協議会に相談し、依頼する。